

最近「年賀状はお早めに～」のセリフやネットプリントサービスの陽気なCMがテレビやラジオなどで流れると、ちょっとおっくうな気持ちになっているのは、私だけでしょうか？

思い起こせば、私が初めて年賀状を作ったのは幼稚園の年長の時でした。それは父の厳しい？教えの下、11 月初旬から始まる我が家の一大行事でした。デザインを考え、カーボン紙でゴム版に写し、おそろおそろ彫刻刀で彫っていく。手が痛くなるので、毎日少しずつ、2～3 週間ほどかけて彫る。版ができたなら、ヤマトのりを加えた絵の具とバレンで刷る。よく乾かしてから宛名と一言を手書きする。私は約 2 ヶ月を費やすこの年賀状作りを通して、父から計画性と根気、社会性を教えられた気がします。

その後、時代の変化と機械の進歩で『プリントゴッコ』による大量印刷、ワープロによる宛名印刷、パソコン作成へと効率化が進みました。そして、携帯電話普及後は「あけおめ」メールも加わりましたが、年賀状は就職や結婚、子どもの誕生など人生のイベントを気軽に知らせる機会としても有効であることから、今まで途絶えずに続けてきたのだと思います。

平成 31 年は平成最後の年賀状なのですが、発行枚数は平成最少の約 24 億枚。ピーク時の約 44 億枚（平成 15 年）の半分近くにまで少なくなっています。人口減少や人付き合いの希薄化、慣習の変化、インターネットやSNSの普及など原因は様々あると思われます。

あんなに熱心だった父も現在は高齢化に伴い、「年賀状も断捨離」と枚数を減らしています。一方我が息子は、親がパソコンで作成した年賀状に一言書きを添えるくらいの体験しかありません。振り返ってみると、宛名を手書きさせたことがないことに気づいた時は衝撃でした。年賀状から離れてしまうのは、個人情報保護の観点から名簿が配布されなくなった影響もあるのでしょうか。

年賀状を書く時間は、遠く離れた実家や親戚、遠方に居住する友人たち、お世話になった方々と一年に一度、お互いの健康と多幸を祈る時間であり、頂いた年賀状を読むのは、互いの無事や成長を祝う幸せな時間でもあります。これからの時代を担っていく未来の子どもたちに、お互いの思いや願いを伝え合う年賀状文化は残っていくのでしょうか。

今年は、年賀状のお年玉くじ賞品として「東京2020オリンピックへのご招待」も登場（対象商品に限る）したとのこと。

年末は何かとあわただしいですが、年賀状文化とその心を我が子に受け継ぐためにも、家族で一踏ん張りして年賀状を完成させようと思います。【Y】

○メルマガで取り上げて欲しい内容や感想など、下記アドレスにお寄せいただければ嬉しく思います。(アドレス登録又は配信停止もこちらからどうぞ(^_^))

mailto:kosodatem@pref.iwate.jp

○メルマガのバックナンバーを当センターHPで閲覧することができます。

アドレスはこちら

「まなびネットいわて」(<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>) > 「発行物・刊行物」
> すこやかメルマガ

これからも、どうぞよろしく申し上げます(^_^)/

【発行】

岩手県立生涯学習推進センター

025-0301 花巻市北湯口 2-82-13

TEL 0198-27-4555

URL:<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/> 「まなびネットいわて」で検索